

# 会津図書館だより

## 玄侑宗久氏をお迎えし、読書講演会を開催しました！



「言中有響」(玄侑宗久氏筆)

去る 3 月 18 日(火) 芥川賞作家で三春町の福聚寺(ふくじゅうじ)住職 玄侑宗久氏をお迎えして会津稽古堂主催事業「玄侑宗久読書講演会」を開催しました。当日は 140 名近くの方が来場され、最後まで熱心に耳を傾けていました。「日本人の心のかたち」というテーマでお話いただきました。震災後、玄侑氏が感じた日本人の心について仏教、文学、ことわざ、歴史など様々な角度から分かりやすくお話くださいました。時折笑いが起こり、大変盛況のうちに終了しました。

講演後はサイン会が行われ、図書館へは色紙に「言中有響(ごんちゅううきょう)」(意味：言葉の中に深遠な意味を含んでいる)と書いていただきました。また、玄侑氏の著書『光の山』が文化庁の平成 25 年度芸術選奨文部科学大臣賞に輝きました。『光の山』は被災者への聞き取りや自身の体験を基に、震災に見舞われた人々のリアルな姿と心情を描いた短編集です。ご興味がある方はぜひご一読ください。

## 婦人のつどい・女性のつどい・男女共生のつどいの皆様からご寄贈いただきました！

暮らし、生き方、仕事、家・家族の本など 22 冊を寄贈していただきました。「男女共同参画コーナー」にございます。ぜひ、ご利用ください。

- 『子育てがプラスを生む「逆転」仕事術』小室淑恵 朝日新聞出版
- 『ケアメンを生きる 男性介護者 100 万人へのエール』津止正敏 クリエイツかもがわ
- 『新しいパパの教科書 プレパパ～3 歳児パパまで』ファザーリング・ジャパン 学研教育出版
- 『阿部絢子のひとりでもハッピーに生きる技術』阿部絢子 主婦の友社
- 『結婚できる「婚学」教室』佐藤剛史 集英社
- 『がんばった分だけ認められる女子の仕事術』千葉のり子 日本実業出版社

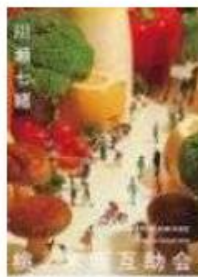




# 新着図書



『生きる力、絵本の力』  
柳田邦男/著 岩波書店  
2014.1 [O19.5/ヤ]  
絵本によって生き直す力を取り戻した人々のエピソードに寄り添いながら絵本の可能性について語る。



『桃ノ木坂互助会』  
川瀬七緒/著 徳間書店  
2014.2 [F/カ]  
住み慣れた町を守るため、老人たちが選んだ手段は…。白河市出身の江戸川乱歩賞作家の新機軸ミステリー。

- ◇ 『祈りの証明—3.11の奇跡—』  
森村誠一/著 角川書店 [F/モ]
- ◇ 『維新の後始末—明治めちゃくちゃ物語—』  
野口武彦/著 新潮社 [210.6/ノ]
- ◇ 『べにや長谷川商店の豆料理（海外編）』  
べにや長谷川商店/著 パルコ出版 [596.3/ベ]
- ◇ 『辞書になった男—ケンポー先生と山田先生—』  
佐々木健一/著 文藝春秋 [813.1/サ]

## 展示コーナー【野菜をつくる・花をそだてる】



家庭菜園やガーデニングの方法やコツ、農業や農村をテーマにした小説やエッセイなどを集めました。（展示期間：4月1日～5月27日まで）



『ルーシー変奏曲』  
サラ・ザール/著 西本かおる/訳  
小学館 2014.2 [933/ザ]  
あふれる音楽の才能がありながらピアノをやめたルーシー。遠ざかったことで自分から湧き出る欲求に気づきます。何度か出てくる、自分の将来は他の誰のものでもなく、自分のものだという言葉が、当たり前ですが印象的です。



## ティーンズコーナー担当者おすすめ本



『思い出をレスキューせよ！』  
堀米薫/著 くもん出版  
2014.2 [Y/369.3/ホ]  
岩手県大船渡出身の金野さんは「紙本・書籍保存修復士」「製本家」です。東日本大震災を経験し、いち早くご自身の知識と技術を生かし、被災した写真の洗浄に取り組みました。紙の中の記憶を後世に手渡す仕事に、地道に根気強く取り組み続けています。



『アイスプラネット』  
椎名誠/著 講談社 2014.2  
[Y/F/シ]  
中学生の悠太の家には、あやしい？仕事で海外暮らしの多い叔父のくうちんがいて、うそのようなホントのような話をよくしてくれます。地球は広くて人々はたくましい。中学2年の国語の教科書に載っている話を長編にしたものです。



4月14日より『福島民友新聞』を館内の専用パソコンから、ご覧いただけます！

## ティーンズコーナーからお知らせ！

平成26年5月から6月末、高校生向けにおすすめの本の展示を開催する予定です。葵高校の図書委員のみなさんにご協力をいただき、寄せられたおすすめ本を展示します。おたのしみに！

会津図書館で所蔵する昭和27年（1952）7月～昭和44年（1969）12月まで（欠号あり）の『福島民友新聞』の紙面をデジタル化し、館内の専用パソコンから閲覧・複写できるようになります。





## 開館110周年を迎えました！

題字は旧会津藩士の漢学者南摩綱紀（羽峰）81歳の時の書です。明治37年（1904）の開館当時玄関に掲げられていた扁額の書を会津伝統の漆の技術で再現し、會津稽古堂2階のエレベーターホール（図書館入口）に飾られています。



◆開館間もない会津図書館◆

### 【待望の開館】

明治36年（1903）7月、会津図書館は日本で第1号の市立図書館として文部省より認可されました（若松市栄町210～212番地）。翌37年2月11日の紀元節（現・建国記念日）に開館式を行い、1週間後の2月18日一般への閲覧が開始されました。図書館の敷地は204坪、木造平屋の本館、12坪の閲覧室、6坪の事務室などと、土蔵2階建の書庫からなっていました。蔵書数は4,039冊、新聞は10種類、雑誌は17種類ありました。

### 【明治・大正期の会津図書館】

現在、図書館の利用は無料ですが、当時は閲覧料、館外貸出料を取っていました。閲覧料は1回1銭（回数券は10回分8銭）でした。昭和22年（1947）7月進駐軍の命令により閲覧料徴収の廃止が決まり、翌年1月20日徴収が終了しました。

開館時間は午前8時から午後4時まで、盛夏中は午後2時や午後3時に終了することもありました。また、大正8年から大正14年まで冬季夜間開館を実施しました。年によって多少違いはありますが、1月から3月まで、時間は18時から21時まで開館していました。



◆『新撰若松市全図』（大正9年刊）より◆

### 【戦後の会津図書館】

昭和21年（1946）4月、図書館は会津物産館（旧物産陳列館）跡に移転しました（会津若松市栄町231番地。後に栄町3番44号に改める）。会津物産陳列館と付設の公会堂は、大正天皇の即位御大典の記念事業として大正10年（1921）10月に完成しました。

建物の1階は閲覧室と書庫、事務室などがありました。2階は講堂、研究室、会議室、郷土博物館等を備え、研究室には継続的な調査、郷土史の研究者のため専任の職員を配置していました。郷土博物館には美術品、植物・昆虫標本、軸物などを収集展示していました。

昭和31年（1956）には事務室を分割し独立の部屋として児童室「母と子のへや」が作られ、約1,100冊を開架していました。



◆旧物産陳列館に移転後の会津図書館◆





◆初代のあいづね号◆



◆現在（第5代）のあいづね号◆  
赤べこをイメージした赤を基調とし、側面には磐梯山と本を読む野口英世の絵が描かれています。

### 【移動図書館 あいづね号】

移動図書館の始めは昭和27年（1952）10月25日、読書週間行事として運行されたもので、翌28年（1953）からジープを使って定期運行が開始されました。

さらに昭和30年（1955）周辺町村との合併が成立、市域が広くなり移動図書館の活躍の場が広がるとともに、農村部を中心に利用も増えていきました。昭和37年（1962）4月東北地方の市立図書館としては第1号となる移動図書館専用車が導入されました。名称は市民から公募され、万葉集巻14東歌の中の「会津嶺（あいづね）の国をさ遠み逢はなはば思ひにせもと紐結ばさね」から「あいづね」と命名されました。

車はマツダ製マイクロバスを改造したもので800～1000冊積載されました。全16コース111ステーションを週4日運行し、ひと月で全コースを巡回しました。平成24年（2012）6月5日第5代目のあいづね号の運行が開始されました。車内には約2500冊の本を積載し、車椅子にも対応した電動式昇降リフトを備えています。市内11コース56ステーションを月1回巡回しています。新しいあいづね号をどうぞご利用ください。

### 【新図書館の建設、そして会津稽古堂へ】

昭和39年（1964）7月会津図書館建設促進会が結成され、城東町の旧会津母子寮跡へ明治百年記念事業として新築移転が決定しました（会津若松市城東町2番3号）。起工式は昭和43年（1968）9月7日、翌44年（1969）7月7日待望の開館式を迎えました。当時、市立図書館としては東北一の規模でした。1階は新聞雑誌などのブラウジングルーム、児童室、事務室等があり、2階は一般及び学生閲覧室、約1万冊の開架図書がありました。書庫は5層式で最大収容冊数13万冊を想定していました。

平成16年（2004）開館100周年を迎え、会津若松市文化センターで開館百周年記念式典及び記念資料展を開催し、記念誌と郷土資料目録を刊行しました。

平成22年（2010）10月31日生涯学習総合センターへ新築移転に伴い、閉館セレモニーを開催しました。

平成23年（2011）4月17日会津若松市生涯学習総合センター（会津若松市栄町3番50号）の2階に新館オープンし、今年開館3周年を迎えます。 卍



◆城東町に建てられた図書館◆



◆生涯学習総合センター◆

愛称は「会津稽古堂」。2階が図書館フロア、中2階が書庫、1階と3階は中央公民館の機能と多目的ホールを併せ持つ複合施設です。

※『会津若松市立会津図書館百年誌』（会津若松市立会津図書館 発行 平成16年）を元に作成したものです。